

寄稿

# 懸案を越え、その先へ

小田原市長 加藤憲一



## かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長、有限会社あしがら総研代表などを経て、現在小田原市長を務める。妻と子ども2人の4人家族。

師走の慌ただしさと寒波の中で行われた衆院選。日本の針路に係わる重要な選挙でしたが、当座の景気対策の是非に議論が集中し、人口減少や急速な高齢化、地域の疲弊、公共インフラ全般の劣化、深刻な財政赤字など、この国が直面している極めて厳しい状況を乗り越えるための道は、明確にはなりませんでした。

今年小田原では、長年の

や地域運営全般で着実な前

懸案であった三大事業が、ハルネ小田原のオープン、お城通り地区再開発事業の着工、芸術文化創造センター実施設計の進展など、具

体化が大きく前進。他にも

農林水産業分野の6次産業化へのチャレンジ、ケアタ

ウン構想など協働による課

題解決の取り組みの進化、

地域コミュニティ事業への

参加地区の拡大など、市政

進がありました。また、民間諸団体や商店街などの活動もより活発化。市民力・地域力は高まってきていると実感しています。

日本全体の課題解決に先

行きへの見通しが立たない中、小田原では、従前から

の懸案を解決すると共に、

その先の、豊かな資源を生

かした持続可能な地域社会

の実現へ、市民と行政の協

働の取り組みをもって向か

いつつあります。心強く、

また誇らしく感じます。

国が唱える「地方創生」。

その解を作ることができ

るのは、地域の現場です。豊

かな可能性を持つ小田原に

生きる私たちは、幸せて安

心できる暮らし、支え合い

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力

(加藤けんいち後援会)

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL.0465-21-5260

(月・水・金 10:00~17:00)

<http://www.katoken.info>

確信を持って進めていくべきでしょう。それにより小田原は、日本再生のさきがけとなり得るのです。新しい年が、市民の皆さんにとって、明るく健やかな、稔り多き一年となりま